



2011.3.11 東日本大震災（左・中の写真：東日本大震災写真保存プロジェクト、右の写真：群馬大学広域首都圏防災研究センター）

3.11 東日本大震災の教訓を忘れない

東日本大震災の教訓から私たちが学んだことは、「**相手は自然で、何が起こるか分からない**」ことです。

私たちの普段の生活や都合に関係なく、また、これまでの経験や想定・想像を超えて発生するのが自然災害です。そして、起こる前の時点では、私たちはなかなか現実感がわからないものです。

複合災害 江戸川区版 3.11 を考える

ゼロメートル地帯水没から命を守るために

江戸川区では、3.11のような未曾有の大災害発生も視野に入れ、災害対策を抜本的に見直していくことになりました。

江戸川区にとっての3.11、それは地震・洪水・高潮が短期間で発生する「**複合災害**」です。

江戸川区版 3.11 による犠牲者をゼロにするためには、様々な課題がありますが、継続的に対策を積み重ねてまいります。

1949年キティ台風で水没した平井駅

2004年ハリケーン・カトリナの接近により広域避難するアメリカニューオーリンズの住民（写真：FEMA）



多田正見
江戸川区長

江戸川区版 3.11 を考える

片田敏孝

群馬大学大学院工学研究科
社会環境デザイン工学専攻 教授
広域首都圏防災研究センター長



江戸川区を襲う複合災害とは

多田区長 三方を水で囲まれたゼロメートル地帯に位置した本区は、自然災害に脆弱な地勢です。そのため、これまでも都市基盤整備を中心に、災害に強い安全・安心のまちづくりを推進してきました。その結果、以前と比べてまちの安全性・防災性は確実に向上していると感じています。

しかし、東日本大震災の未曾有の被害、そして、頻発する記録的な大雨による全国各地の被害をみると、自然災害への100%の防備はないということを痛いほど思い知らされます。今回、片田先生には、地震によって被災したまちに、巨大台風が襲来することを想定した複合災害対策の検討に全面的に協力していただきました。まさに「江戸川区版 3.11」ともいえる災害を想定したわけですが、そのような災害が発生した場合、一体どのようなことが起こり得るのか、教えていただけますか。

片田教授 そうですね。まず、発生が間近に迫っていると言われている首都直下地震が発生すると、建物の倒壊だけでなく、堤防や水門なども被害を受ける可能性があります。それは、そうそう簡単に復旧できるものではありません。もし仮に完全に復旧できていない状況で台風シーズンを迎え巨大台風が襲来すれば、洪水や高潮により、ゼロメートル地帯の広範囲が水没するという事態が考えられます。シミュレーションでは、そのような最悪のシナリオの災害が発生すると、区内で甚大な人的被害が発生する可能性があることが明らかになりました。

複合災害犠牲者をゼロにするためには

多田区長 確かに浸水被害が深刻となることは想像できますが、なぜそれほどまでに人的被害が大きくなってしまっているのですか。

片田教授 それは、まず避難者が膨大であることと、その避難者全員を収容できる施設が、区内にはないことが原因としてあげられます。さらに、区民が一斉に避難すると、交通渋滞や過度の集中が起こり、被害が拡大してしまう可能性があるのです。

そして、見落としがちなのが、暴風の影響です。巨大台風が接近すると、かなり早い段階から外に出られないほどの暴風が吹き荒れ、避難すらできずに多くの区民がゼロメートル地帯に取り残されてしまうのです。

多田区長 なるほど、危険が迫ったら避難すれば良いという単純なことではなく、人口が集積する本区だからこそころ避難問題がありそうですね。

片田教授 そのとおりです。避難者の集中をさけ、避難者を時間的・空間的に分散させるためには、浸水被害の可能性のあるゼロメートル地帯から早い段階で脱出する広域避難が必要と考えています。

最悪の災害に対して「正しく恐れる」

多田区長 日頃、海や川の恩恵にあずかる私たちですが、一方で、地震、洪水、高潮という様々な事態が起こり得ることを、肝に銘じておかなければいけないことがよくわかりました。本区としても先生がおっしゃった広域避難について、早い段階で避難誘導ができるよう、周辺区市や東京都、千葉県などと連携した体制づくりを行っていきたくと考えております。

では最後に、区民の皆さんにメッセージがありましたらお願いします。

片田教授 今回取り上げた複合災害は、ことが大きいだけに、区役所だけが対策を進めれば良いということではありません。とはいえ、区民の皆さんは、地震や洪水、高潮など、ひとつひとつの災害をとって見ても、普段あまり考えたくない話なのに、それが複合的に起こるとい話をされても、面食らってしまう、あるいは不安に思われるかもしれません。しかし、これらの危険は昔からあったわけで、いたずらにおびえる必要はありません。そして、不安に思っているだけで、自らが何も対応しなければ意味がありません。いつ起こるか分からない災害を100%防ぐことはできないかもしれませんが、災害に備えて日々、区役所も区民の皆さんも、自分たちができる最善の努力を積み重ねていくことでしか、その不安を解消できないのです。最悪の災害に対して「正しく恐れる」、そしてそのうえで、「自らの命を守る主体性」を持つことが重要です。

多田区長 片田先生、この度は本区の災害対策に重要な示唆を与えていただき、ありがとうございました。複合災害対策については、まだまだ解決しなければならない課題が残っていますが、どのような災害が起こったとしても、ひとりの犠牲者も出さない地域づくりに、区民の皆さんも主体的に参加していただきたいと思います。